



2020年度

浜松の未来を育てる会
2020年4月1日～2021年1月14日

一般社団法人ここみ
2021年1月15日～2021年3月31日

報告書

目次

- 1) 事業成果
- 2) 浜松市委託子育て支援ひろば
 - 【基本事業】
 - ・ 中区ここみ広場
 - ・ 南区ここみのうち
 - ・ 浜北区ここみの森
 - 【加算事業】
 - ・ 妊婦支援
 - ・ 親支援・孫育支援
 - ・ 外国人支援・長期休暇支援
- 3) 行政・他団体との協働・ボランティア
- 4) ここみドゥーラ
- 5) ここみ学びLabo
 - ・ 人材育成
 - ・ 講師派遣

1) 事業成果



【妊娠中】 子育て支援ひろば (妊婦支援など)

- 助産師による妊娠・出産・産後・子育てに関する情報提供、個別相談
- ここみドゥーラによる産後の暮らしについての情報提供、子育て支援制度の活用相談
- 来場親子との交流
- 妊婦仲間づくり
- 赤ちゃんを迎える心構えや準備のサポート
- 夫婦のパートナーシップを考える機会



【妊娠中～産後】 訪問型産前産後サポート ここみドゥーラ

- 家事、育児支援
- 育児相談
- 子育ての伴走者としての寄り添い
- 地域の子育て資源の情報提供
- 赤ちゃんとのおでかけ支援（ここみの子育て支援ひろばとの連携）
- ※ここみドゥーラははますくヘルパーとしても活動



【産後2ヵ月くらい～】 子育て支援ひろば

- 子育てを見てまねる場
- 身近な相談相手(スタッフ)
- 専門家による発達相談、子育て相談
- 来場のきっかけ・仲間づくりのための産後おしゃべり・パパおしゃべり
- 親育ちを支える親支援講座（乳幼児の発達、おもちゃと学び、だっことおんぶ、復職準備など）
- 夫婦のパートナーシップを考える機会

2020年度、会設立から13年を迎えた。

コロナ感染症という未知のウィルスにより、社会が混乱する中、感染拡大防止のため、子育て支援ひろばを休止するという今までに経験したことのない事態が起きた。親子の居場所が失われることで産後うつや虐待、DVなどの問題が起きやすいことを懸念し、ひろばは休止中にできることとして急遽、ZOOMを利用したオンラインひろばを自主開催した。その後、ひろばは再開されたが、定員制になったりと制限のある中で、試行錯誤しながら妊婦や乳幼児親子のサポートをおこなった。

不安を抱える来場者にスタッフは常に寄り添い、安心できる居場所であり続けることを念頭に置き、活動した。

ここみドゥーラ事業は、浜松市のはますくヘルパー事業として4年目となった。利用時間数は前年度比約2.2倍となり着実に実績を伸ばしている。

ここみドゥーラが訪問した家庭が、子育て支援ひろばを訪れることも増え、産前産後のつながりができている。

2021年1月には一般社団法人として新たなスタートを切ることができた。

※図はここみの産前から産後までの切れ目ない支援を表している。

2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

妊婦支援

ひろば名	2019年度 妊婦のひろば参加延べ 人数（うち妊婦支援 日）（人）	2020年度 ※1 妊婦のひろば参加延べ 人数（うち妊婦支援 日）【うち上半期】	2020年度【上半期】 浜松市子育て支援ひ ろば全体の妊婦延べ 参加人数 ※2	【上半期】 全体対す る割合	【上半期】 3つのひろば での割合
ここみ広場	41(37)人	55(45)【13】人	107人	12%	29.9%
ここみのおうち	18(15)人	35(30)【8】人		7%	
ここみの森	12(8)人	18(15)【11】人		10%	

※1 2020年上半期は感染症拡大防止のため臨時休館あり

※2 令和2年度浜松市母子保健推進会議資料より

妊婦とその家族のひろばへの来場はここ数年ほぼ横ばいとなっていたが、新型コロナウイルスの影響で、上半期は激減したにも関わらず、全体で見ると昨年度を上回る来場があった。

（2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で4～5月、7～8月に一時臨時休館）

これは、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、市が開催する“はじめてのパパママレッスン”が少人数定員先着制となり、受講できない妊婦家族が増えたことで、その代替案として、子育て支援ひろばの妊婦支援の受講を積極的に勧めた影響が大きいと考えられる。

また、積極的にここみのブログで発信し、検索に引っかかりやすくなったことも大きい。

ここみのひろばでの妊婦支援でも定員予約制になっているが、月2回×3ひろばで開催しており、選択肢が多く、土曜日の開催（南区ここみのおうちのみ）では夫婦で参加しやすく好評。また、写真のようにみんなで輪になりリラックスした雰囲気の中で行われるため、疑問点や不安なことを直接助産師に聞きやすく、「次もぜひ参加したい」とリピーターも多い。

コロナ禍で実家が県外の人や祖父母世代が手伝いに来られない、気軽に助けてもらえない家庭も増えているため、今後もひろばの妊婦支援で少しでも不安な気持ちを解消できるよう努めていく。



助産師による妊婦支援の日の様子
模型を使って出産のイメージを伝えている

妊婦支援利用者の声



土曜日開催（南区）では
夫婦での参加多数

コロナで病院での母親学級がないので、実際に助産師さんから話を聞いてとても勉強になりました。（妊婦）

コロナで立ち合いは難しいので、出産の話が聞けてよかった。怖い話(胎盤の話)とかもあったが事前に知っておけてよかった。（夫）

出産時の不安なことについて詳しく聞くことができ少し不安が解消されました。（妊婦）

全て初めてのことで大変勉強になりました。
妻の妊娠中、産後に自分がどのように働きかければよいか
またお聞きしたいです。（夫）

たくさん時間をかけて細かい所までお話できて、かなりありがたかったです。（市役所などは15分程度）（妊婦）



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

妊婦支援

ひろば名	2019年度 妊婦のひろば参加延べ 人数（うち妊婦支援 日）（人）	2020年度 ※1 妊婦のひろば参加延べ 人数（うち妊婦支援 日）【上半期】	2020年度 浜松市子育て支援ひ ろば全体の妊婦延べ 参加人数 ※2	全体対す る割合	3つのひろば での割合
ここみ広場	41(37)人	55(45)【13】人	275人	20%	39.3%
ここみのおうち	18(15)人	35(30)【8】人		12.7%	
ここみの森	12(8)人	18(15)【11】人		6.5%	

※1 2020年上半期は感染症拡大防止のため臨時休館あり

※2 令和2年度浜松市母子保健推進会議資料より

妊婦とその家族のひろばへの来場はここ数年ほぼ横ばいとなっていたが、新型コロナウイルスの影響で、上半期は激減したにも関わらず、全体で見ると昨年度を上回る来場があった。

（2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で4～5月、7～8月に一時臨時休館）

これは、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、市が開催する“はじめてのパパママレッスン”が少人数定員先着制となり、受講できない妊婦家族が増えたことで、その代替案として、子育て支援ひろばの妊婦支援の受講を積極的に勧めた影響が大きいと考えられる。

また、積極的にここみのブログで発信し、検索に引っかかりやすくなったことも大きい。

ここみのひろばでの妊婦支援でも定員予約制になっているが、月2回×3ひろばで開催しており、選択肢が多く、土曜日の開催（南区ここみのおうちのみ）では夫婦で参加しやすく好評。また、写真のようにみんなで輪になりリラックスした雰囲気の中で行われるため、疑問点や不安なことを直接助産師に聞きやすく、「次もぜひ参加したい」とリピーターも多い。

コロナ禍で実家が県外の人や祖父母世代が手伝いに来られない、気軽に助けてもらえない家庭も増えているため、今後もひろばの妊婦支援で少しでも不安な気持ちを解消できるよう努めていく。



助産師による妊婦支援の日の様子
模型を使って出産のイメージを伝えている

妊婦支援利用者の声



土曜日開催（南区）では
夫婦での参加多数

コロナで病院での母親学級がないので、実際に助産師さんから話を聞いてとても勉強になりました。（妊婦）

コロナで立ち合いは難しいので、出産の話が聞けてよかった。怖い話(胎盤の話)とかもあったが事前に知っておけてよかった。（夫）

出産時の不安なことについて詳しく聞くことができ少し不安が解消されました。（妊婦）

全て初めてのことで大変勉強になりました。
妻の妊娠中、産後に自分がどのように働きかければよいか
またお聞きしたいです。（夫）

たくさん時間をかけて細かい所までお話できて、かなりありがたかったです。（市役所などは15分程度）（妊婦）



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

親支援・孫育て支援

今の親子や異世代が個々に抱える課題や社会的課題に沿った内容の講座を、いろいろな角度から豊富に企画。他にはない特徴ある講座をピックアップ。

今年度は参加組数を5～8組に限定して開催したため参加人数は減ったが、講師とのやり取りや参加者同士の交流がより深くおこなわれた。

『パパのおしゃべり会』

今までファシリテーターを務めてくれていた2男子を子育て中のパパに加え、育児休業を取得したパパもファシリテーターとして参加。パパのためのおしゃべり会。

パパ同士で本音トークができる貴重な講座。

子どもと一緒にざっくばらんな雰囲気の中、普段なかなか出会えない同年代の他のパパたちとパパ目線での話ができる。

Data 5回開催 参加人数：父20/母15/子23/妊夫婦4/延べ62人



パパのおしゃべり会

『多胎児おしゃべり会』

双子や三つ子を育てた母親が運営する団体「しずおか多胎ネット」と協働した、実体験に基づいたおしゃべり会。

多胎育児の生の声が聞け、多胎を育てる親同士がこれからの子育ての見通しを立てやすくなる。

単胎の親子も参加し、多様な育児があることを知る場ともなっている。

Data 4回開催 平日又は土曜日 参加人数：父4/母9/子18/延べ31人



復職準備講座

『復職準備講座』

育休後アドバイザーによる復職準備のための講座。

働くパパママの不安や復帰後に始まる生活の実際を共有し、夫婦でよく話し合うことの大切さから、どんな家事育児サポートサービスがあるのかまで学べる。

Data 2回開催 平日又は土曜日 参加人数：父2/母14/子14/他1/延べ31人



パパとママのコミュニケーション講座

『パパとママのコミュニケーション講座』

パートナー同士日々忙しく、一緒に住んでいても会話も不足してしまう産前・産後の時期。

家事・育児・仕事をより協力していきたい、パパママのためのコミュニケーションワークを開催する。実際に体を動かして体のコリも解消する。

Data 3回開催 平日又は土曜日 参加人数：父9/母4/母12/子15/他2/延べ39人



抱っことおんぶ

『赤ちゃんとの暮らしを豊かに』シリーズ

- ①成長と発達 ②おもちゃとあそび
- ③抱っことおんぶ ④はじめての歯みがき

赤ちゃんとの暮らしがより豊かになり、親子でともに楽しく成長していける“今日からはじめられる”をモットーに展開する講座。どの回も参加親子の個々の悩みを拾い上げながら、皆とも共有することで、“誰しもある悩み”と共感が生まれ、子育てなかまの輪が広がる。

Data 9回開催 平日又は土曜日 参加人数：父16/母47/子47/他4/延べ114人



はじめての歯みがき

2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

外国人支援

3つの各ひろばに、通訳が月2回・年間24回訪れ、ひろばを利用する外国人親子の支援を行った。

通訳の配置と実績

中区ここみ広場：中国語

外国籍の保護者延べ43名 子延べ43名 国籍内訳：中国・台湾・韓国

南区ここみのおうち：英語・タガログ語と中国語（隔月で配置）

外国籍の保護者延べ12名 子延べ12名 国籍内訳：中国・ポルトガル語

浜北区ここみの森：英語語・タガログ語

外国籍の来場なし

実績では中国圏の方が中区のここみ広場へ多く来場。定期的に通う親子もあり、ひろばでの再会を楽しみに来場し家庭ではほぼ話せない母国語を通訳や他の利用者と話せることで、親自身が楽しみ、子どもにも言葉を聞かせることができるよい機会となっているようだ。また、その場にいた日本人の親子にとっても、外国の子育てに興味をもち、多文化の交流ができています。外国籍の方もコロナの感染症を心配し、外出しづらい状況や母国へ帰れない不安を共有した。南区のここみのおうちは昨年度に比べ来場が増えているものの、平日開催では参加が難しいことや、外国籍の保護者への周知が課題となっており、母国語で書かれたチラシを作成するなどの工夫をして、まずはひろばを知ってもらうことに重点を置いた。



通訳者と母国語での会話を楽しむ外国籍の保護者



絵本を母国語に訳しながらの読み聞かせ



来場者の子どもと遊ぶ通訳者

長期休暇支援

3つの各ひろばにて、春・夏・冬の長期休暇期間（小学校の長期休暇に合わせる）に、幼稚園児や小学生の親子の居場所として広場を利用できる長期休暇支援。

中区ここみ広場	合計30日開催	幼稚園児・小学生延べ17名
南区ここみのおうち	合計36日開催	幼稚園児・小学生延べ35名
浜北区ここみの森	合計32日開催	幼稚園児・小学生延べ18名
※コロナのため休止した期間あり		

普段下の子を連れてよく広場を利用している家族の上の子（幼稚園・小学生）の来場があり、長期期間中に上の子を連れて利用できることは助かるとの声がある。ソーシャルディスタンスを保ちながらできる、ボードゲームをや季節の行事に合った福笑いなども用意した。小学生ボランティアを希望して来る子もいて、スタッフと一緒におもちゃの整理や片付けなどを積極的に行ってくれた。また、自分の弟妹だけでなく他の0～2歳の子と遊んだりお世話する姿もみられ、異年齢の交流ができた。乳幼児や幼児の来場者の親からは、兄弟姉妹の関わり方や複数の子を持つ親の接し方が参考になったとの声が聞かれ、今後の育児の参考になるという支援につながった。



スタッフ自作の福笑いを楽しむ兄弟

3) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市市民協働・地域政策課 学生ボランティア受入事業

「中高生NPO1日インターンシップ 市民活動体験講座」

日時：2020年11月30日

今回で7回目となる学生ボランティアの受入事業。

参加者：中・高校生ボランティア4名

妊婦及び0～2歳児親子との交流、ふれあい体験。

助産師による妊娠出産産後の暮らしや子育てについての相談の見学をおこなった。

中高生が0～2歳児の親子にふれあう体験や専門職の助産師から実際に話を聞くことは、将来母となり父となる彼らにとって貴重な機会となった。



実際の赤ちゃんを見ることができ、助産師の話も聞ける貴重な体験

浜松市内の大学 実習受入

妊婦さんから0～2歳の赤ちゃんと親に実際に会い、話を聞くことができる実習。学生はスタッフと一緒に1日を過ごす。

・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学 実習5名受入



親子と交流するインターンシップ市民活動体験中の高校生

しずおか多胎ネット

しずおか多胎ネットとは、平成29年度（2017年度）から協働し、ひろばにて多胎のおしゃべり会を毎年継続して開催している。今年度は、多胎の独自のサークル活動もままならないなか、ひろばでの多胎の活動ができたことで、ふたご家族とも継続して繋がることのできた。

主な開催ひろばは、駐車場があり多胎家族が来場しやすい南区ここみのおうちと浜北区ここみの森。来場時に手助けが必要な場合は、スタッフに声をかけてもらえるように伝えている。



左端がしずおか多胎ネット代表高山ゆき子さん
自身も双子を子育て中。
ひろばに来場した双子親子の話を親身になって聞いている。

どおんどの会・えほん文庫

【どおんどの会】

絵本の読み聞かせボランティアとして、長年継続してここみのひろばに来ていただいている。

今年度も5回、各ひろばを巡ってえほんの読み聞かせやわらべうたなどの親子のふれあいあそびを伝えてくださっている。

毎回人気の講座で、たくさんの親子が交流している。

【えほん文庫】

自宅で絵本の貸し出し等をおこなっている家庭文庫の「えほん文庫」さんに、ここみ広場とここみのおうちに各1回、祖父母世代を対象にした孫育て講座に来ていただいた。絵本の選び方や最近人気の絵本の紹介のほか、絵本の読み聞かせとわらべうたあそび、紙芝居など盛りだくさんの内容で行っている。



3) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市助産師会

南区のここみのおうちは、すこやか助産院（主宰：浜松市助産師会会長齋藤由美さん）をお借りして子育て支援ひろばを開催しており、産前から産後の切れ目のない子育て支援を協働で行っている。



助産師の齋藤由美さんを囲む妊婦さんや親子@ここみのおうち

ここみパートナーの活動

2020年度はここみパートナー制度（次ページに詳細）を発足し活動した。中でも、ここみ親子パートナーのメンバーが企画し、浜北区中瀬の南部緑地公園を主な活動場所とした「おさんぽの会」は毎回好評。室内のひろばではできない立地を活かした公園遊びの活動を通して、親子のエンパワメントが引き出されている。活動に参加する親子は毎回いきいきと楽しんでいる。また、地域の方で構成されているここみパートナーが、おさんぽの会に同行し、木の名前や特徴など地域の方の知恵を、親子に伝えてくれることで、自然がより親しみやすいものとなっている。地域の方も喜んで活動してくれており、双方にとって楽しく心地の良い活動となった。



活動には父親の参加もあり、子育て中でも自ら活躍できる場として意欲的に活動した。

2020年度のここみサポーター登録は8組。
15回開催。参加親子は延べ約205組

主な活動内容
浜北区ここみの森、「おさんぽの会」

ひろばを開催している会館前にある中瀬南部緑地公園

地域の方やここみの活動に興味のある方13人がここみパートナーとして登録。
2020年度は延べ20人のボランティアが参加。



4) ここみドゥーラ事業（はますくヘルパー事業）

産前産後のサポートが必要な時期に、家庭に訪問して家事支援・育児相談支援などの必要な支援を行う事業。親子が地域とつながるきっかけとなるよう地域の子育て支援ひろばなどの情報を伝え、親子が孤立しないよう働きかけている。

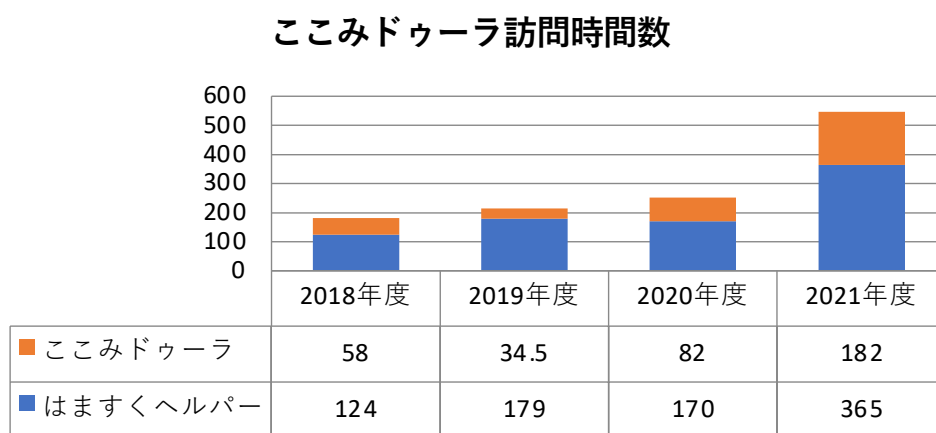
浜松市のはますくヘルパー事業の登録事業者としては、4年目となった。今年度の利用時間数は昨年度の約2.2倍となった。その要因は新規利用者、継続利用者が増えたことによる。毎年実施してきた産前産後サポート基礎講座はコロナ禍で開催を見送った。

ひろばの妊婦支援スタッフとして産前産後の情報提供を担う

ここみ広場、ここみのおうち、ここみの森では毎月2回、1回2時間、妊婦支援（プレパパママ教室）を開催している。ここみドゥーラは妊婦支援担当として、妊婦に配布する必要な資料の収集、当日の運営、子育て支援の情報提供（はますくヘルパー、産後ケア、民間のサービスなど）などを行い妊婦支援の充実に努めている。

ここみドゥーラ利用者をひろばにつなぐ重要な役割も担っている。

ここみドゥーラ訪問時間数実績



ここみドゥーラ（はますくヘルパー）利用者の声

里帰りをしなかったもので、掃除や料理まで手が回らず、サポートしてもらえて助かった。また家にこもりがちで他の人と話す機会が少なかったので気分転換にもなった。

サポートをして下さりつつ、私の相談にのってくださったり、子どもの目線で子どもと話をして下さるところに感動しました。

子育て支援ひろばの様子や、親子の様子も聞くことができ、でかける参考になりました。助けてくれる人がいると思うだけで心が楽になりました。ここみドゥーラさんに来ていただけた日は、余裕をもって子どもに接することができました。

産後、身も心も疲れているところをサポートしていただけたことがとても助かりました。家事以外にも、話し相手になっていただいたり、産後の身体のことや二人育児についてのアドバイスを作業しながら教えていただいたりしたことが良かったです。



5) ここみ学びLabo

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大きな講座の開催などは控えた。

その中で、これまでのボランティア活動の中身や考え方、方向性を整理し、ここみサポーター改め『ここみパートナー』制度を構築し、新たなスタートを切った。

【ここみパートナー制度】

2019年度までは「ここみサポーター」と称して行ってきたボランティア活動のコンセプトを見直し、共に楽しみながら、支えあっていくよきパートナーという意味を込めて、『ここみパートナー』へ改名した。

ここみパートナー制度とは、登録制のボランティア活動部門のこと。

「ここみ親子パートナー（子連れで活動）」と「ここみパートナー（地域の方）」の2部制でそれぞれ登録ができる。

子どもが育つには街中の人の関わりが必要と言われている。ここみパートナーといっしょに活動することで、より多くの地域の方と親子が触れ合う機会を増やし、みんなで支え合う気持ちをお互いに持てるような活動にしたいと考えている。

<活動内容>

親子パートナーは、ひろばの利用者の親子から発足しており、公園さんぽの企画など、今親子でやりたいことを親子単独ではなく、他の親子もいっしょに巻き込んで、みんなで楽しもう！というサークル的な活動をしている。

ここみパートナーは、ひろばを利用する親子の見守りボランティアをメインに、「背守り刺繍の会」などの企画に、都合に合わせて自由に楽しみながら参加してもらっている。

パートナー登録にあたり、まずはここみのこと、ここみパートナーのこれまでの活動のことを知ってもらうために、「ここみパートナー説明会」を浜北区ここみの森と、南区ここみのおうちにて実施した。

2020年度ここみパートナー説明会

第1回：2021年1月23日（土）13時～14時30分

会場：ここみの森（浜北区中瀬）

参加者：親子計3組、地域の方計2名 合計5名

第2回：2021年2月15日（月）13時～14時30分

会場：ここみのおうち（南区瓜内町）

参加者：地域の方3名



<成果>

説明会に参加した方が全員ここみパートナーへ登録をしてくれた。

また、ここみの森での説明会では、両方の立場（子育て中と卒業した方）がいっしょに参加したため、その場でこんなことをしたいという発案があり、地域の方もそれに協力してくれることになり、さっそく企画をし、3月に『おなまえ刺繍の会』をここみパートナー主催で開催した。

ここみは後方支援で、募集や企画の進め方をサポートした。急な企画だったため、参加者はここみパートナーの親子3組と1名以外は、一般の参加者は親子1組ではあったが、参加者は久しぶりの裁縫で楽しくできたと好評だった。

その後も、ここみの森では、親子パートナーは主に公園でのあそびの企画を定期的に主体的におこなっている。

また、ここみパートナーも、定期的にひろば利用の親子の見守りボランティアに参加している。

ここみのおうちでは、以前よりここみサポーターとして活動してくれていた方に、新しい方も加わって説明会に参加。今後の展開が期待できる運びとなった。

5) ここみ学びLabo

【講師・委員等派遣実績】

講師：大隅和子

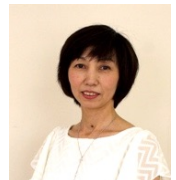
浜松の未来を育てる会代表・子育て環境アドバイザー・
積み木遊びアドバイザー・教育カウンセラー・おもちゃコーディネーター



- ・「遊びで育つ力」志田・榛原地区通級指導教室
- ・「地域子育て支援研修」川崎市中原区保育総合支援課
- ・「子育てシンポジウム」カラフルブリッジイン掛川
- ・「子育て広場の環境づくり」愛知県私立幼稚園協会
- ・「居場所づくり」磐田市東協働センター、浜松市南区
- ・「子育て支援拠点中級研修」群馬県社会福祉協議会
- ・「子どもの発達と遊び」浜松市保育園、浜松市内保育園、子育て支援拠点
- ・「子育て支援員研修」浜松市子育て支援拠点

講師：大村美智代

浜松の未来を育てる会事務局長・アンガーマネジメントファシリテーター
育休後アドバイザー・ドゥーラ・タッチケアセラピスト



- ・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学特論 非常勤講師「子育て支援」
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立曳馬小学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立上島小学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立曳馬中学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」天竜協働センター
- ・「ここみのおしゃべりサロン～復職準備講座～」浜松こども館
- ・浜松市西区協議会委員(2020年3月まで)

講師：小沢めぐみ

子育て環境コーディネーター・おもちゃコーディネーター
ベビーウェアリングコンシェルジュ



- ・「子どもの発達とおもちゃ」森町子育て支援センター
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」引佐協働センター
- ・「0歳児ママのおしゃべりサロン 全3回」佐鳴台協働センター
- ・「ここみのおしゃべりサロン～親子にやさしいだっことおんぶ～」浜松こども館
- ・「ここみのおしゃべりサロン～赤ちゃんがよろこぶ手作りおもちゃ～」浜松こども館
- ・「乳幼児期に大切な3つのこと」浜松市立南保育園
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」小豆餅ゆすらうめこども園



非営利型一般社団法人ここみ

☎430-0928

静岡県浜松市中区板屋町692

お問い合わせ

Mail: npa.kokomi@gmail.com

Tel: 070-1616-7424

HP: <https://npa-kokomi.jimdofree.com/>

FB: <https://www.facebook.com/kokomi.Hamamatsu/>

Twitter: https://twitter.com/kokomi_hiroba

LINE公式アカウント: @kokomi